



学校だより 8・9月

教育目標

- ・かしこく
- ・やさしく
- ・たくましく

HP <http://sakawa-e.saitama-city.ed.jp/>

■発行日 平成30年 8月28日

■発行 さいたま市立栄和小学校

さいたま市桜区栄和1-7-1

Tel 048-853-4022

Fax 048-840-1427

◇花と歌と笑顔あふれる学校◇

「生きる力」を育む

校長 濱崎 泰行

夏季休業中には、夏祭り、盆踊り大会などの地域の行事に参加する児童の姿を多く見かけることが出来ました。様々な体験をしてひと回りたくましく成長した児童の姿が学校にあふれ、今日から二学期が始まりました。

職員は、この長期休業期間を利用して、二学期の教育活動を充実させるための研修や環境整備作業を行いました。長期休業期間は、教職員にとって、日ごろの指導を振り返り、教材研究をしたり、資質向上のための研修に努めたりする機会でもあります。教育委員会主催の研修会に参加したり、いじめ防止やカウンセリング技能の向上のための校内研修に参加したりして指導力・専門性の向上に努めました。

私がこの夏読んだ教育書に次のような話が載っていました。

『あるとき、仏様が道ばたに立っていらっしゃった。すると、一人の男が荷物をいっぱい積んだ車を引いて通りかかった。しかし、大変なぬかるみにはまってしまい、懸命に引いても車は動かない。汗びっしょりになって男は苦しんでいた。その様子をしばらく見ていらっしゃった仏様は、ちょっと指でその車におふれになった。その瞬間、車はすっとぬかるみから抜けて、からからと男は引いていった。』(大村はま著『教えるということ』(共文社))きっと、この男は、すべて自分の力でぬかるみから抜けだたと信じていることでしょう。今後、男は困難なことに遭遇してもこのぬかるみから自力で抜け出たことが自信となって、困難を乗り越えていくことでしょう。男にとって、この自信はきっと「生きる力」になることでしょう。

私は担任をしているとき、いつかは、この仏様の指のような指導をしたいといつも思っていました。現実には「この子にはこういう声掛けをしたい」「この教材では、こういう資料を示して、児童の理解を深めたい」等考え、つい児童の前面に出がちでした。これは、これで指導に対する熱意の表れですので、否定はしません。しかし、いつかは研修を積んで、この仏様の指のような指導をしたいものです。

さて、2学期は、校外学習、修学旅行、音楽会など、いろいろな行事があります。これらの中には、子どもたちが自主的に話し合って計画を立て、実施していくものもあります。「子どもは行事を作り、行事は子どもを育てる」といわれるように、行事は、子どもたちが成長するための貴重な体験の場です。夏休みの体験から学んだことを生かして、どの子も人とのかかわりの中で、ひと回りもふた回りも大きく成長し、実り多い学校生活を送ってほしいと思います。